

ワンパーセント イオン1%クラブ

vol.11
2025 Autumn



日本と中国の高校生が北海道の札幌市時計台の前で記念撮影（ティーンエイジ アンバサダー）

イオンワンパーセントクラブ活動レポート



首相官邸にて中国の学生から、長島昭久総理補佐官へ、漢詩の一節を記した書道作品が贈られました



国会議事堂にて本庄さとし衆議院議員のお話を熱心に聞いていました



呉江浩大使より歓迎のお言葉をいただきました



中国大使館の職員と高校生の交流会を行いました

表敬訪問活動

首相官邸・国会議事堂・中華人民共和国駐日本国大使館を訪問

プログラム2日目の7月15日(火)、高校生たちは日本の政治の中核である首相官邸を訪問しました。石破茂首相からのメッセージを長嶋昭久総理補佐官が代読し、日中間における国民交流、とりわけ若い世代間の交流が未来の礎となることへの期待が熱く語られました。参加者は真剣な表情で耳を傾け、この活動を通して自らが担う役割をあらためて意識

する様子が見られました。

続いて国会議事堂を見学し、日本の立法府の役割やその重要性についての理解を深めました。本庄さとし衆議院議員からは、国際情勢の変化の中で他国との協力がいかに不可欠であるかが語られ、両国間での相互理解を促進する意義が強調されました。

夕刻には中華人民共和国駐日本国大使館を訪れ、呉江浩特命全權大使をはじめ職員の皆さまから温かい歓迎を受けました。高校生たちは自校の紹介を行い、大使館職員との交流会を通じて親睦を深めました。

交流会後の歓迎会では、当財団の理事・監事や寄付企業の代表者と活発な交流が行われ、呉大使からは民間交流の重要性、特に若い世代の活動が日中友好の未来を切り拓くと力強いメッセージが寄せられました。

翌16日(水)には、明治記念館にて外務省の濱口歩交渉官より日中関係における民間交流の意義についての講義を受けました。高校生たちは、国際関係の第一線で活躍する実務家の言葉に触れ、自らが「小さな大使」として果たすべき役割の重みを改めて認識しました。



学生から外務省濱口歩 交渉官へ日本と中国の友好親善について沢山の質問が寄せられました



日本と中国の高校生が中国大使館にて呉江浩大使はじめとする大使館職員の皆さま、当財団寄付企業の代表者さまと記念撮影



後援：外務省、中華人民共和国駐日本国大使館

2025年7月14日(月)から19日(土)までの6日間、「2025年度日本・中国「ティーンエイジアンバサダー」の日本プログラムを実施しました。日本と中国の高校生、総勢80名が参加し、政府機関への「表敬訪問活動」や史跡・展示施設の見学、伝統文化の体験を通じて日本への理解を深める「歴史・文化活動」、さらに学校体験やホームステイを通じて現地の暮らしに触れる「交流活動」などを行いました。

今年度の活動では、新たに北海道庁や愛知県庁の「表敬訪問」に加え、「歴史・文化活動」では、「匠の精神に学ぶモノづくり」「未来のまちづくり」というテーマに基づいて活動しました。

今回の参加校 同じ番号の高校同士がペアとなり活動に取り組みました。

日本の参加校

01. 札幌日本大学中学校・高等学校 (北海道)
02. 市立札幌開成中等教育学校 (北海道)
03. 順天中学校・高等学校 (東京都)
04. 名古屋大学教育学部附属中・高等学校 (愛知県)

中国の参加校

01. 湖南師範大学附属中学 (長沙市)
02. 長沙市南雅中学 (長沙市)
03. 北京市第四中学 (北京市)
04. 北京市第八十中学 (北京市)

日時	活動内容	場所
7月15日(火)	首相官邸への表敬訪問 中華人民共和国駐日本国大使館職員との交流 同大使館での歓迎会	首相官邸(東京都) 中華人民共和国駐日本国大使館(東京都)
7月16日(水)	外務省職員との交流会	明治記念館(東京都)
7月17日(木)	表敬訪問、「次世代モビリティ産業」についての講義	愛知県庁(愛知県)
	黄綬褒章受章者の福田 隆氏より組紐の歴史を学び制作体験	龍工房(東京都)
	「エキマチスマートシティ」についての講義	高輪ゲートウェイ駅(東京都)
	表敬訪問、「北海道Society5.0構想」についての講義	北海道庁(北海道)
7月18日(金)～ 7月19日(土)	学校体験・ホームステイ	各学校・自宅(北海道、東京都、愛知県)

歴史・文化活動

【北海道での活動】

北海道では、地元の札幌日本大学中学校・高等学校と市立札幌開成中等教育学校、中国から湖南師範大学附属中学と長沙市南雅中学の生徒が活動しました。

深川硝子工芸の工場では、自動車の廃ガラスが再生ガラスとしてリサイクルされる工程を見学したのち、サン



北海道庁にて、長沙市南雅中学の学生から加納孝之副知事へ牡丹の刺繍の掛け軸が贈られました

【愛知県での活動】

愛知県では、地元の名古屋大学教育学部附属中・高等学校と北京市第八十中学の生徒が、「産業と未来」をテーマに学びました。

愛知県庁にて大村秀章知事を表敬訪問し、愛知と中国の交流の歴史と、次世代への期待が伝えられました。さらに愛知県庁DX推進課の野村



愛知県庁にて北京市第八十中学の学生から大村秀章知事に、パンダの刺繍の置物が贈られました

北海道・東京・愛知で体験する「日本のものづくり」と「未来都市学習」
7月17日(木)の交流活動では、高校生たちは三つの地域に分かれ、それぞれの地に根差した歴史・文化に触れました。

【東京都での活動】

東京都では、地元の順天中学校・高等学校と北京市第四中学の生徒が組紐作りの体験に臨みました。

「黄綬褒章」を受章した福田隆氏をはじめとする龍工房の職人の皆さまから、日本に伝来した組紐が独自に



龍工房にて福田隆氏をはじめとする職人の皆さまに日本と中国の学生をお迎えいただきました

発展してきた歴史を学び、「人と人の縁を結ぶ『糸』の精神」に触れました。その後、高輪ゲートウェイシティを視察し、「エキマチスマートシティ」に関する講義を通じて未来都市の在り方を考える機会となりました。



龍工房の皆さまより組紐の作り方を教えていただきました

交流活動

プログラム終盤では、中国の高校生たちが日本の家庭でホームステイを行いながら、日本の学校生活を体験しました。授業や部活動に参加し、日常の学びを直接感じる機会となりました。特に各家庭でのホームステイは、日本の生活様式や文化を深く理解する貴重な場となり、浴衣を着て花火を楽しむんだり、家庭料理を囲んで会話を



中国の学生が日本の高校でパフォーマンスを披露しました

交わしたりと、言葉の壁を越えた温かな交流が行われました。最終日、空港での別れの場面では、互いに涙を流しながら再会を誓う姿が見られ、このプログラムが国境を越えた深い友情を育みました。10月には日本の高校生が中国を訪問し、現地での生活や文化を通じてさらなる理解を深める予定です。



ホームステイにて日本の学生の家族と楽しいひと時を過ごしました

参加者の声

市立札幌開成中等教育学校(生徒)

中国の文化に対して多少の不安がありましたが、実際に話してみると日本人と同じような感情を持っていることが分かりました。偏見や固定観念で判断するのではなく、直接向き合っ

順天中学校・高等学校(生徒)

海外からゲストを迎える経験は初めてでした。ペアの子が日本の文化に興味を持ち、たくさん質問してくれたことで、私自身も日常的に当たり前だと思っ



藤田 壮 氏(東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻 教授 水環境工学研究センター長)による講義

【レクチャー】
プログラム前半では、国内外の講師による講義を受け、異文化や世界の水事情から考える「安全・安心な水」の確保や、気候変動に伴うアジアの都市・地域における水環境と国際的な課題、さらに解決に向けた政策について学びました。講義後には活発な質疑応答が行われ、参加者は安全な水の確保に向けたグループディスカッションを重ねました。



東京都水の科学館で水の循環について学習



千葉市南部浄化センターで下水処理の工程を学びました

【見学ツアー】
施設見学では、水処理の仕組みを学ぶため、千葉市南部浄化センターの協力を得て、家庭や工場からの排水が集められ浄化される過程や、処理水の再利用・資源循環への理解を深めました。次に東京都水の科学館では、「水のとびシアター」や「水の実験室」を通じて、水の循環や水道インフラについて体感的に学びました。



成果発表会の優勝チーム

【成果発表会】
最終日には、ホテルニューオータニ幕張にて成果発表会と表彰式が行われました。参加者はプログラムを通じて得た学びやチームでの議論をまとめ、プレゼンテーションを実施しました。審査員3名を招き、「解決策が実現可能であるか」「安全な水の定義が具体的に示されているか」といった基準に基づき審査が行われ、1位から3位までのグループが決定しました。発表を終えた参加者の表情には、言葉や文化の壁を乗り越えた達成感と笑顔があふれていました。

学生たちの感想

カンボジアの学生

プログラムを通じて、協力や尊重、そして柔軟な考え方の重要性を学びました。各国の仲間とチームワークを重ねる中で、より良いコミュニケーションの方法を身につけ、多様な文化に対して感謝の気持ちを持つようになりました。

インドネシアの学生

将来に向けて必要なスキルを習得できただけでなく、国際的なネットワークを築くことができました。また、時間を守ることの大切さを実感し、自身の成長に繋がりました。

日本の学生

安全な水の重要性や災害への備えについて理解を深めることができました。ここで出会った友人たちとのつながりを大切に、小さなプロジェクトを共に続けていきたいと考えています。



各国の参加者と審査員、来賓の方々による記念撮影

2025年8月18日(月)から22日(金)にかけて、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、日本、ベトナム、マレーシア、ラオスの8カ国から選抜された高校生80名が日本に集まり、2025年度「アジアユースリーダーズ」を開催しました。
急速な人口増加や産業発展、気候変動などにより、水源や水質が脅かされ、安全な水を十分に確保できない地域はいまだに存在します。参加者たちは「安全な水を得るために何ができるか」というテーマについて、各国からの代表8名で構成されたグループごとに、英語を共通言語としてディスカッションを行いました。
最終日には、10グループがそれぞれの議論の成果を発表しました。

国境を越え、多様な価値観を学ぶ

アジアユースリーダーズ

後援：外務省、文部科学省

アジアユースリーダーズとは？

アジア各国の高校生が、社会問題をテーマとして視察や専門家によるレクチャーに基づき、英語を共通言語として議論を重ね、解決策を提案するプログラムです。自分とは違う考え方や意見に対する理解を深め、視野を広げる場を提供し、次の世代を担うリーダーの育成を目的とします。

審査員の皆さま

王立ブノンベン大学 教授 コック・ソテア 氏
国際大学国際経営学研究科 特任教授 モハメド・アーメド 氏
日本ユニセフ協会 団体・企業事業部 部長 谷口 光 氏



グループディスカッションの様子

講義

日時	講師	テーマ
7月26日(土)	国際大学国際経営学研究科 特任教授 モハメド・アーメド 氏	「リーダーシップと異文化の理解」
8月2日(土)	国際大学国際経営学研究科 特任教授 モハメド・アーメド 氏 上智大学 グローバル教育センター／グローバルスタディーズ研究科 国際協力学専攻 教授 杉浦 未希子 氏	「チームワークとプレゼンテーションスキル」 「世界の水事情から考える『安全・安心な水』の確保」
8月19日(火)	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 教授／水環境工学研究センター長 藤田 壮 氏	「グローバルな視点から考えるアジアの水問題と課題」
8月20日(水)	UNICEF Cambodia 専門家 ミケーレ・ババ 氏	「水と気候の関係：エビデンス、政策と解決」
8月21日(木)	王立ブノンベン大学 教授 コック・ソテア 氏	「すべての人に安全な水を：世界とASEANにおける現状と動向」

イオンチアーズクラブ活動レポート

イオン チアーズクラブは小中学生を対象とし、環境や社会貢献に興味・関心を持ち、考える力を育む場として、全国約450店舗を拠点にさまざまな体験学習を行っています。



サケのふるさと 千歳水族館のタッチプールでチョウザメやウグイに触れました

北海道大会ではサケのふるさと千歳水族館を見学しました。
館内の「水中観察ゾーン」では、千歳川に設置された窓から川の様子や北海道ならではの淡水魚を観察しました。さらに、日本屈指の透明度を誇るカルデラ湖支笏湖では「ネイチャーピング」に挑戦。湖畔を散策しながら、ピングカードに示された花や生き物の声を探し、楽しみながら自然に親しみました。北海道の豊かな自然に触れ、メンバーたちは大いに満足した様子でした。



支笏湖の前で記念撮影(北海道大会)



支笏湖にて山線鉄橋で記念撮影



多様性をテーマに手話を交えて発表をするイオン チアーズクラブ「徳島」のメンバー

関東大会ではミュージアムパーク茨城自然博物館を訪れました。迫力ある恐竜の模型や骨格標本、隕石や地層の展示を通じて、地球の歴史や生命の進化を学びました。また宇宙航空研究開発機構(JAXA)筑波宇宙センターでは、人工衛星やロケットの実物大モデル、宇宙飛行士の訓練設備などを見学。「きぼう」の実物大模型に入ったメンバーは、「宇宙飛行士になった気分!」と笑顔で語っていました。見学を通じて、宇宙研究が天気予報や災害対策など日常生活に役立っていることを学び、宇宙をより身近に感じる貴重な機会となりました。



ミュージアムパーク茨城自然博物館では恐竜の生態を学びました



「きぼう」の実物大模型の内部を見学



JAXAつくば宇宙センターの前で記念撮影(関東大会)



リサイクル先進国ドイツの事例を学び実践したことを発表するイオン チアーズクラブ「羽生」のメンバー

2025年8月1日(金)から3日(日)まで、関東と北海道の2会場で「イオンチアーズクラブ全国大会」を開催しました。同年2〜4月に実施した壁新聞審査会で入賞した33クラブのメンバーが、全国各地から集まりました。

活動
レポート

1

全国から入賞クラブが集結
活動成果を堂々発表!

大会初日には、各エリアで優秀な成績を収めたクラブ(北海道大会6クラブ・関東大会7クラブ)が代表として壁新聞の発表を行いました。春に開催された最終審査会から期間を置いて、久しぶりに人前での発表に臨んだメンバーは、緊張の面持ちを見せながらも、活動の成果や今後のアクションプランについて堂々と発表しました。

関東大会では、一般社団法人共同通信社の松尾聡志経済部次長より各クラブの壁新聞に対して講評をいただきました。最優秀賞の発表を聞いた他のメンバーからは「次は自分たちも最優秀賞を目指したい」との声が上がり、大きな刺激となった様子でした。

壁新聞審査会とは

イオン チアーズクラブでは、年度末に1年間の活動成果を振り返り、壁新聞にまとめて発表する「壁新聞審査会」を行っています。全国で開催する予選会のあと、13エリアに分かれて最終審査会を行い、入賞クラブは全国大会に参加します。



イオンワンパーセントクラブ 渡邊理事長より認定証を授与

日本の大学で学ぶアジア各国の奨学生62名に認定証を授与

2025年6月28日(土)に、東京都内にて「イオン スカラシップ」認定証授与式および懇親会を開催しました。授与式には、国内14の大学に在籍する海外からの奨学生62名が参加し、当財団の理事長らによる認定証の授与のほか、駐日各国大使館や外務省の代表からの祝辞、奨学生による「将来の夢についてのスピーチ」や修了生からのメッセージが披露されました。懇親会では、来賓の方々から将来のキャリアに関するアドバイスをいただいたり、パシフィック・ミュージック・フェスティバルの修了生による演奏が行われ、参加者同士が世代や国境を越えて交流を深める貴重な機会となりました。



鈴木佐知子選考委員長より28名の奨学生に認定証が授与されました

近野教育振興基金による奨学生認定証授与式を開催

2025年7月12日(土)、山形県米沢市内の会場にて奨学生認定証授与式を開催しました。選考委員より山形県置賜地方の奨学生8校34名に認定証が授与され、代表者3名が将来の夢や地域社会への貢献に向けた思いを力強く語りました。来賓には山形県教育局の米野和徳教育次長のほか、奨学生が在籍する高等学校の代表者の皆さまを迎え、祝辞では山形県の須貝英彦教育長より、奨学生への期待と激励の言葉が贈られました。



イオンワンパーセントクラブ 渡邊理事長(左)と、ユニセフカンボジア事務所 代表 ウィル・パークス 様(右)

安全な水のために6,362万円をカンボジア・ラオスに寄付

2025年8月12日(火)、プノンペンにて「イオン ユニセフセーフウォーターキャンペーン2025」贈呈式を開催しました。本活動は2010年よりカンボジア等の子どもたちに安全な水を供給するため実施しています。2025年5月1日(木)から2か月間、日本全国7,830カ所で募金を行い、お客さまから寄せられた3,181万2,112円と当財団から同額を拠出し、6,362万4,224円を公益財団法人日本ユニセフ協会を通じてカンボジアとラオスに寄付いたしました。贈呈式には在カンボジア日本国大使 植野篤志閣下、ユニセフカンボジア事務所 代表 ウィル・パークス様、カンボジア工業科学技術革新省 飲料水総局長 タン・ソクチャ様にご出席いただきました。



グループディスカッションの様子(東京)

高校生が集い「エコ活動」を発表 ディスカッションで学びを共有

2025年8月5日(火)と7日(木)、エコ活動に取り組む高校生を対象に、自校の活動発表やグループディスカッションを行う「エリアミーティング」を開催しました。5日には東北・首都圏エリアから7校が東京に、7日は東北・中部エリアから5校が埼玉に集まりました。自校で取り組むエコ活動の発表と環境課題の解決策についてグループディスカッションを行い、話し合った内容をもとに、他校から得た気づきと自校のエコ活動の今後の展望を共有しました。

イオンアグリ創造株式会社のご協力のもと、2025年9月7日(日)、三木里脇チアーズ農園(兵庫県三木市)にて、イオンチアーズクラブ「伊丹」「伊丹昆陽」「三木」「三木青山」のメンバー23名がぶどうの収穫体験を行いました。メンバーたちは一房500gを超えるほどに成長したぶどうに驚きながら、レクチャーで学んだ方法で慎重に収穫していきましました。とても小さな粒だったぶ

どうが、こんなに大きく育っていて驚きました。持ち帰って家族みんなで食べるのが楽しみです」と話すメンバーもいました。最後に「だいこん」と「にんじん」の種まきを行いました。メンバーたちは11月の収穫の日を心待ちにしながら、土に指で小さな穴を空け、そこに丁寧に種をまき、上から優しく土をかぶせて作業を終えました。



活動
レポート
2

三木里脇チアーズ農園でぶどうの収穫！



「だいこん」と「にんじん」の種を植える様子



VR防災体験車の前でご協力いただいた消防士、尾西食品株式会社、イオンディライト株式会社の方々と記念撮影



消防士の皆さまのご指導のもと、水消火器の使い方を学ぶメンバー

活動
レポート
3

「もしものときの防災教育」防災を実践的に学ぶ！

後半は、尾西食品株式会社による非常食講座を実施いただきました。ローリングストック法※1について学んだ後、アルファ米※2のおにぎりを試食しました。「本当に食べられるくらい柔らかくなるの?」と不思議そうにしていたメンバーも「普通のお米と同じおいしさでびっくり!」と喜び、防災への関心を高める貴重な機会となりました。

活動前半では、「VR防災体験車」や「煙体験ハウス」で災害時の状況を体験しながら避難方法を学び、「水消火器体験」では消火器の正しい使い方や操作のポイントを教わりました。さらに、イオンモール館内でスプリングラーの設置場所を探し、それぞれの役割について学習しました。

佐野市消防本部、尾西食品株式会社、イオンディライト株式会社のご協力のもと、2025年6月29日(日)、イオンモール佐野新都市(栃木県佐野市)にて、イオンチアーズクラブ「佐野新都市」のメンバー23名が「もしものときの防災教育」に参加しました。

※1.ローリングストック法
※2.アルファ米

備蓄を日常的に消費し、消費した分を買戻すことで常に一定量の備蓄を維持すること
炊き立てご飯のおいしさをそのまま急速乾燥したもの

財団概要

笑顔あふれる未来をつくる。

イオンワンパーセントクラブは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオングループの基本理念を具体的な行動に移し、社会的責任を果たすことを目的に、グループ各社の参画のもと、1990年に設立されました。

以来30年以上にわたり、お客さまにイオングループをご利用いただき、生まれた利益の1%相当額をもとに、「子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域の発展への貢献」「災害復興支援」を主な活動領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。

ご寄付のお願い

次代を担う子どもたちのために、皆さまのご支援をお願いいたします。

イオンワンパーセントクラブでは、子どもたちの教育や国際交流、地域文化の保全などの活動に取り組んでいます。なお、当財団は、内閣総理大臣より「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、当財団への寄付金については、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。

ご寄付の方法

クレジットカード
決済

WAON POINT
利用

銀行振込

右記のコードを読み取り、
寄付受付画面にお進みいただき、ご寄付の方法をお選びください。

<https://aeon1p.or.jp/1p/about/donation/>



編集後記

第11号では、言葉や文化の壁を越えて絆を深める学生や、元気いっぱいに活動するイオンチアーズクラブメンバーの様子をお届けしました。同行したイオンチアーズクラブ全国大会の壁新聞発表では、真剣な眼差しで自分たちの活動を語り、仲間の発表に耳を傾ける姿が印象的でした。支笏湖では、ビンゴゲームを通して、北海道の自然に触れ、小さな発見を喜び合う笑顔には、学ぶことの楽しさがあふれていました。活動の様子はHPやInstagramでもご紹介しております。今後ともイオンワンパーセントクラブをよろしくお願いいたします。

(佐伯)

公益財団法人

ワンパーセント

イオン1%クラブ

[発行元] 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1

Tel 043-212-6023

Mail 1p@aeon.info

右記のコードを読み取ると
当財団の活動詳細をご覧いただけます。

<https://aeon1p.or.jp/1p/>

